

東京無線協組(川村泰利理事長)の全国共通タクシーチケット網「タワーネットワーク」に参加する各地のタクシー事業者が11月27日、新宿区のハイアットリージェンシー東京で初めて一堂に集い、交流した。大分県タクシーチケット事業協組の漢二美理事長(全国福祉輸送サービス協会会長)や北星交通の下山清司社長(青森県タクシー協会会長)、東海交通の青木良浩社長(愛知県タクシー協会会長)ら46社61人が駆けつけた。先立って26、27の両日、東京無線の施設見学会も催された。

懇親会であいさつした川村理事長はタワーネットに

46社が成果共有

東京無線タワーネット初交流



大画面に映した配車システムの説明を聞く見学者(東京無線の無線配車室)



川村理事長(左)が懇親会であいさつ(ハイアットリージェンシー東京)

ついて「利用者にとって全間違いがなくなる」とメリッとしたタクシー会社のための国どころでも同じチケットがットを強調。さらに「クレ使え、参加は優良事業者のジットカード、交通系電子み。経営者にとってチケットマネー、ウーバーといったトの経費節減、販路拡大ともの間違い、手数料やソフト使用料はかからない」とし、「タクシー会社がつく枚のチケットになることで、

いいものをつくり、成果を共有したい」と述べた。メイテックコムや富士通デ、セイコーソリューションズの決済機、配車システムが展示された。

施設見学では無線室で配車システム、研修室で乗務員教育、電算室でチケット精算・ウェブ請求書などを職員が説明。見学者は「数千台規模の無線配車はなかなか見る機会がない。参考になった」と話していた。